



「地域共生のいえ」とは、オーナー自らの意思により家・建物を地域の公益的かつ非営利なまちづくり活動の場として地域に役立てる取り組みです。

地域共生のいえ かわら版

創刊号

発行月：平成26年3月31日

発行：一般財団法人世田谷トラストまちづくり

ふ れ る ・ つ な が る ・ ひ ろ が る

地域共生のいえの「今」をお伝えします！！

「地域共生のいえ」とは、オーナーの意思により地域にひらかれ、公益的で非営利なまちづくり活動や地域の絆を育む活用がなされている、世田谷区内の私有の建物です。

2005年からスタートし、現在15カ所となりました。

オーナーの想いと、その想いに共感する方々によって、個性豊かな取り組みが各地域で展開されています。

かわら版では、地域共生のいえそれぞれの空間や活動の「今」を定期的に伝えながら、地域と関わり、つながるさまざまなカタチ、そのヒントをみなさまにご紹介していきます。

地域共生のいえ
かわら版
創刊号



12 ありりんかん
在林館
祖父母の代から住み継がれた場所を生かした、出会いと交流を育むギャラリー。
所在地 羽根木2-34-4
連絡先 03-3321-0530
<http://aririnkan.blog.fc2.com/>



1 **岡さんのいえTOMO**

昭和の面影を残す築60年の小さないえ。上北沢の「まちのお茶の間」。
所在地 上北沢3-5-7
連絡先 090-8332-7514
<http://www.okasannoie.com/>

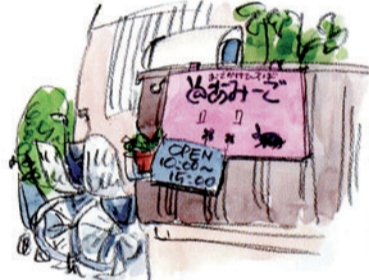


2 **椎の木**

高齢者施設に入居する方々が、我が家にいるようなひと時を過ごせる樹木豊かなおうち。
所在地 桜上水3丁目

4 **ルツの家**
×おでかけひろば@あみーご

放牧する子育てをテーマにひらかれた「地域の親戚の家」のような親子の集い場。
所在地 松原4-2-18
連絡先 03-3328-4411
<http://plaza.rakuten.co.jp/atamigo/>



3 **COS下北沢**
×NPO法人コスファ

フリースペースを有した地域活動団体の拠点。ちいきの「元気」を育てる発信基地。
所在地 北沢2-39-6
連絡先 03-3481-5340
<http://npocosfa.com/>



7 **COSちとふな**

地域貢献を志す団体の拠点であり、地域に開放された多目的室も含めて様々な人が交わる場。
所在地 船橋1-1-2
連絡先 03-3420-6060



6 **リブロニワース**

インターネット古書店を営むオーナーの書齋が、哲学カフェやイベントの場に。
所在地 赤堤1-13-2
連絡先 03-3324-6465



8 **あかねこうぼう**

手しごとの会やギャラリー、ワークショップを通して気軽に集い、豊かなふれあいを育む工房。
所在地 祖師谷4-7-18
連絡先 03-3482-1818



5 **茶論ONECOIN**

半地下のガレージの一部が多目的活動の場に。地域のお年寄りの心の拠り所。
所在地 宮坂2丁目
連絡先 090-8002-3539
<http://onecoin360.blog129.fc2.com/>



13 **真喜楼**

初心者も経験者も集い楽しむ「暮」コミュニケーション・サロン
所在地 砧6丁目



15 **ケアラーズカフェ KIMAMA**

お花とケーキでお出迎え。ケアラー（介護にたずさわる人）の集う自宅サロン。
所在地 桜丘5-15-11
連絡先 03-3439-1650



11 **あばら屋 春夏**

介護に関わる方などが、ティースプーン一杯、ほっと一息つきに来ていただきたい場所。
所在地 新町2-34-13
連絡先 03-3420-2649



10 **野草の会・こめこめ庵**

自宅を地域の方々集い場に。おしゃべりのたえない場。
所在地 弦巻1丁目



9 **読書空間みかも**

大正時代から引き継がれる空間が、本をはじめとする文化の交流の場に。
所在地 奥沢2-33-2
連絡先 03-3718-2011
<http://www.tamamati.com/network/net6.html>



14 **いいおかさんちであ・そ・ぼ**

地域の子ども、ママさんを支える昭和なおうち。
所在地 玉川2-9-19
連絡先 03-3709-5835
http://www.yurutsuna.jp/real_report/pg403.html



たくさんの方々からのエール

いま社会では、人々の孤立化が静かに、深く、進んでいます。私たちは、生活の足下を見つめ直すことを迫られています。

それは、偶然居合わせた誰かとともに、自分がそこにあるという感覚を強く持つこと。自分が他者を認め、他者に認められているという実感を得ること。そこに新しい自分を発見すること。他者をもコミュニティに巻き込んでいくこと。こういう循環をつくりだすことです。

「地域共生のいえ」は、この循環を生み出す空間です。

牧野 篤さん

東京大学大学院教育学研究科 教授

私達はコミュニティプレースを研究しており、その都市型モデルとして地域共生のいえに注目、期待しています。高齢者が元気で活躍し、子供たちが安心して遊ぶ、気軽に対話が弾む場として、超高齢社会における社会課題を同時に解決する効果的な役割を担っていると考えます。

一方、この活動を継続するためにスタッフが苦勞されているのも事実です。この場の良さ、仕組みに企業が産学連携で関わらせて頂くことで継続的活動の一助となり、世田谷に多様な居場所と笑顔が溢れるまちづくりが進むことを願います。

**東京大学
コミュニティプレース研究会**

今、民間の方々が自分のもっている資産や場所、プライベートスペースを『みんなの活動のたまり場にしたい』、『子育ての拠点に』など、公に出す動きが多くとりあげられています。

民営民営の場には、公営公営の中にはない『その空間の主(ぬし)の香り・雰囲気』があります。支援もその香りを大事にしたい。その家の身の丈にあった「いえ」の香りのする公の場所が地域にいくつか点在することが、これから地域の強み、豊かな暮らしにつながっていくのだなあと感じています。

小西 玲子さん

NPO法人玉川まちづくりハウス

広い家に一人暮らしするお年寄りが増える中で、その「空き部屋」をどう活用するかは、今日の大きな関心事です。うまく活用すれば、地域の居場所になるだけでなく、お年寄りの生き甲斐にもつながります。自治体が介入することで安心して貸し借りできる… 本当にうまい仕組みだと思います。東京の他区でも話題になることが多く、世田谷区らしい取り組みの代表例です。私の研究室の学生も調査でお世話になりました。この場をお借りして感謝します。

小林 秀樹さん

千葉大学大学院工学研究科 教授

世田谷育ちの私にとって地域共生のいえは、実家のあるまちがこれからも、あたたかなつながりと笑顔にあふれた地域でありつづけると信じられる心の支えです。みなさんの活動に憧れるとともに、いつも感謝しています。場をひらくには楽しさだけではなく苦勞も多いと思いますが、それぞれの場にしかないかけがえのない小さなストーリーたちを、どうか大切に紡いでいってください。「かわらばん」で拝見するのを楽しみにしています！

坂倉 杏介さん

港区「芝の家」プロジェクトファシリテーター
慶応義塾大学グローバルセキュリティ研究所特任講師

岡さんのいえでカフェをやらせてもらい、色々な方々に食べて頂くことで、お菓子に対する自分なりのアプローチが決まりました。不特定多数の人ではなく、対象を決めその人を感動させるお菓子。味も重要ですが、相手に対する気持ちをどう見た目、香り、食感、味で表現していくかという自分なりの表現方法が決まりました。なにより自分が色々な人と関わって成長できました。大人こそ、自分の価値観が固定し過ぎないように、色々な人と関わる方がいいと思いました。

太田 誠さん

岡さんのいえTOMO まことカフェ
ロックな菓子職人

日頃の生活をしばし忘れて本の世界に浸るのに、コンクリの壁やパイプの椅子では、あまりにも情緒に欠けます。みかもの古い家屋の佇まいや窓から眺める空と庭の樹木。これら全てがマッチして、ひとときの癒しの空間ができています。みかもで朗読サロンを開かせていただいて、もうすぐ二年。日本の古き良きものに抱かれて、古今東西の作家の心を多くの方々にお伝えできることに感謝でいっぱいです。

齊藤 まさみさん

読書空間みかも
朗読と本のサロン

上北沢ホームでは毎月1回、数名の利用者達を近所の地域共生のいえ「椎の木」に訪問させて頂いています。利用者にとって今までの生活の拠点であった「家」への訪問のなかで、必ず得られるものは、利用者の生き活きた表情と「生きる力」です。そんな利用者の変化を目にする時は、それこそ介護冥利に尽きる瞬間でもあります。これからも上北沢ホームでは、「地域共生のいえ」との関わりを大切なケアの一環として続けていきたいと思っています。

枝 孝治さん

上北沢ホーム・介護主任

誰にも知られずひっそりと活動していた「地域共生のいえ」が、少しずつ知られるようになってきました。これもみんなで作ったリーフレットやそれぞれのいえでの日々の活動の積み重ねの成果です。いえの紹介だけでなく、もっと日々の活動をダイナミックにお知らせしたいということもまた、当初からの強い願いでした。このたびやっと創刊される「かわらばん」がこの願いをきつかなえてくれると信じ、このことが一つのいえの活動ばかりでなく、お互いをより深く知り、思いを重ね合わせて、たくさんの方を生み出すきっかけになることを期待しています。

井上 文さん

NPO法人SAHS (せたがやオルタナティブハウジングサポート)

はじめの一步を担当した。平成13年頃「高齢者が住み続けられる地域社会」「子育てを支える地域社会」をテーマに、区役所福祉調整部門や社会福祉協議会などと小規模多機能の場について研究会を開始。その後2年間基礎調査を経て「地域共生のいえ」事業提案に至る。先進事例研究、民間事業者インタビュー、住まいづくり学校、アンケート調査など多角的取り組みが反映された。アンケート調査には「やってみたい!」という反響が4件も寄せられ手ごたえを感じた。それから10余年。トラまち大学の講座のお手伝いをしながら学生たちと関わり続ける。課題と発見多々あり。ゴールはない。

齋藤 啓子さん

武蔵野美術大学視覚伝達デザイン学科 教授

地域に開かれた空間には、個人や地域の「記憶」が埋め込まれていることが重要だと思います。「ここにこういう人がこういう思いを持って暮らしていた」という事実を受け継ぐ人がいること。そして、その事実が場の力を通じて感覚的に地域で共有されること。そのことが、新たに建てられた公共的な空間とはまた違った地域共生の物語を生み出し、人と人の関係を編み上げていくのだと思います。地域共生のいえの取り組みはまさに、そういった地域の記憶の結び目を作り上げていく活動とも言えるのではないのでしょうか。

アサダ ワタルさん

日常編集家・「住み開き」言い出しっぺ

いえ ♡ モノゾコト

しい 椎の木 我が家で過ごすようなひと時の 絵手紙



■DATA
所在地 世田谷区榎上水3丁目

高齢者施設に入居する方々を招いて自宅のようなひとときを過ごしていただいている「椎の木」。絵手紙を描いていた方の、「お友だちに絵はがきを出したい!」という言葉がきっかけで、施設に出向いて絵を描く会『アトリエのいのみ』がスタートしました。オーナーが庭から、四季折々の花、果実などを採って持って行き、絵を描くことによって季節を楽しんでいただいています。最初は「私、描けない」という方が多く、「描ける描ける、描きましょう」と声をかけました。今では、待ちかねたように、席に着くなり筆を走らせる方が多くなりました。キンカン、タラノメ、ナノハナ、アジサイ、カキ、モミジなどなど。皆さんが描く季節の花々は可愛らしくて個性的。ある日の絵手紙は「春よこい」「早くあるきたいです」と、こころを伝える絵手紙になっていました。皆さんが無心で描かれる絵手紙は、世界にひとつだけのすてきな作品です。

始める、描きましょう」と声をかけました。今では、待ちかねたように、席に着くなり筆を走らせる方が多くなりました。キンカン、タラノメ、ナノハナ、アジサイ、カキ、モミジなどなど。皆さんが描く季節の花々は可愛らしくて個性的。ある日の絵手紙は「春よこい」「早くあるきたいです」と、こころを伝える絵手紙になっていました。皆さんが無心で描かれる絵手紙は、世界にひとつだけのすてきな作品です。

発行にあたって

いよいよかわら版の発行にこぎつきました! それぞれの「いえ」の日々の活動といえの機微にも触れていきたい。読んでいただくみなさまに何かのきっかけとちよつとほっこりする気持ちになっていただければ、と企画から編集メンバーとともに頭を悩まし発行に至りました。限られた紙面の中ですが、地域共生のいえの様々な側面をお伝えできればと思っています。今後ともどうぞよろしくお願いたします。そして皆様からのエールに改めて

感謝申し上げます。 当財団では、自己所有の建物を生かして、地域の公益的かつ非営利なまちづくり活動を支える場「地域共生のいえ」を自分で始めたい…とお考えのオーナーさんを支援しています。 地域に役立つ活用イメージの検討、利用者・運営協力者の発掘、運営のルールづくりなどをまちづくりの専門家や NPO と一緒に考えていきますので、どうぞお気軽にお問合せください。(担当:SK)

「トラまち」から

